

# 自然遊学館 だより

## 2013 AUTUMN

### No.69



**カワラナデシコ**

和泉葛城山の稜線にて (2013. 8. 1)。

ハギ、ススキ (尾花)、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウの秋の七草の一つ、ナデシコ (撫子) は、カワラナデシコのことです。

**2013. 11. 8 発行 貝塚市立自然遊学館**

### 目次

*ネイチャーレポート	近木川でカダヤシ出現……………山田浩二…14
ヤマトヌマエビの発見……………西川佑亮… 1	* 職業体験の感想 …………… 15
貝塚市のクワガタムシ……………岩崎拓… 1	* 学芸員実習生の課題研究 …………… 15
*行事レポート	* 寄贈標本 …………… 16
トンボ観察・採集と標本作り……………松田勲… 3	*特別展レポート
夕暮れの海探検……………山田浩二… 6	特別展「千石荘の自然」の報告Ⅱ
夏休み自由研究相談 2013 …………… 7	……………岩崎拓・湯浅幸子… 20
海藻おしばワークショップ ……………山田浩二… 8	*20周年記念寄稿
自然生態園バッタ調べ 2013 ……………岩崎拓… 8	遊学館 20周年を記念して『生きものだいすきで20年』
近木川河口の生きものと遊ぼう! ……山田浩二… 9	ー 生きものだいすきの歴史が積み上げたもの ー
近木川のアユを調べよう! ……………山田浩二… 11	……………高橋寛幸… 23
*泉州生きもの情報	再び貝塚市のコバネガ (Lepidoptera:Micropterigidae)
ウスムラサキシマメイガ	の昆虫について ……………保田淑郎… 25
……………田中博・橋本和樹・道姓拓海… 12	*スタッフ日誌 …………… 26
蝶の話題 2点 ……………岩崎拓… 13	*お知らせ …………… 27

## 📖 ネーチャーレポート

### ヤマトヌマエビの発見

日時：2013年08月15日 13時頃

場所：稲谷川

この日はお盆休みで時間があつたので、家族で川遊びへ行きました。私が子供の頃から通っている場所で身近な川です。川の上流なのですが、この日は雨が少なかった影響で水量はずいぶん減っていました。浅瀬の石をどけながら生き物を探しているとまずは、サワガニ・カワヨシノボリが見られました。それに混じってエビも見つかりました。以前からミナミヌマエビは何度も発見していますが、どうやら形状が違うようです。慎重に採集し、プラケースに入れて観察すると若い個体は半透明で透き通って綺麗ですし、抱卵したメスは黒色の体色で渋い色合いです。それでもミナミヌマエビほど生息地に合わせて体色を変化させないようです。さらに特徴として体には赤色の斑紋があり、尾には青色のスポットが見られました。何より抱卵している卵がミナミヌマエビの卵に比べて非常に小さかったのです。種々の特徴からヤマトヌマエビであることを確信しました。しかし、今までこの場所では採集したことがないこと、また過去の記録にもないことから放流の疑いも捨てられません。さらに、探索を続けると近くの石の隙間から10数匹のヤマトヌマエビが出てきました。

今回は一箇所ではしか発見できなかったため徐々に探索範囲を広げて生息の有無を確認していきたいと思っております。そして今

後の継続的な調査は必要ですが、稲谷川（近木川）にヤマトヌマエビが生息している可能性もあると考えています。



ヤマトヌマエビ（大和沼蝦）

**特徴：**体長は約40mm。メスの方が大きく体色が黒ずむ。ヌマエビ類の中では比較的大型。体色は半透明で体側面には赤い斑紋があり、他のヌマエビとは区別できる。

**生態：**ゾエア幼生は海に下り、成長と共に川を遡上する両側回遊型である。

（姫路市 西川 佑亮）

### 貝塚市のクワガタムシ

大阪府には12種のクワガタムシが生息していて（大阪府、2000a）、そのうち貝塚市では10種が確認されています（表1）。表1には、それぞれの種が確認された市内の場所も示しました。本誌の寄贈標本のコーナーでご覧いただいているように、これらのデータの多くは、市民の方からお寄せいただいたものです。改めて御礼申し上げます。

表1. 貝塚市で確認されているクワガタムシ科昆虫  
自然遊学館所蔵標本のデータから

種名	採集場所
アカアシクワガタ	馬場、和泉葛城山
オニクワガタ	和泉葛城山
コクワガタ	二色～千石荘～和泉葛城山
コルリクワガタ	和泉葛城山
スジクワガタ	馬場～和泉葛城山
チビクワガタ	水間
ネブトクワガタ	大川
ノギリクワガタ	馬場～蕎原
ヒラタクワガタ	千石荘～蕎原
ミヤマクワガタ	馬場～和泉葛城山

コクワガタは二色から和泉葛城山まで生息域が一番広いのに対して、記録された場所が限られるのが和泉葛城山のオニクワガタとコルリクワガタ、水間公園のチビクワガタ、大川のネブトクワガタです。と言っても、ネブトクワガタはこれまで1個体しか標本が得られていないので、実際の分布域を推測するにはデータが少なすぎるでしょう。他の種に関しても、新たな生息場所が見つかる可能性があります。

廉価なデジカメが出回り始めた 2003 年頃より以前は、クワガタムシの生体写真はほとんどなく（他の昆虫の写真も今よりは少なく）、この 10 年以上記録がなかったアカアシクワガタ、コルリクワガタ、ネブトクワガタの 3 種の生体写真が自然遊学館にはありませんでした。

今回、8 月の和泉葛城山山頂の昆虫調査で、ようやくアカアシクワガタの雄成虫の生体写真を撮影することができました（図 1、2）。ブナの倒木上にいたもので、おそ

らくその倒木から羽化したものと思われます。久々の採集となり、こんなに赤色が鮮やかなことを忘れていました（標本の赤色はくすんでしまっています）。



図 1. ブナ倒木上のアカアシクワガタ♂成虫  
(2013 年 8 月 1 日、和泉葛城山山頂付近)



図 2. アカアシクワガタ♂成虫の腹面  
(体長 30 mm)

最初に大阪府 12 種で貝塚市 10 種と書きました。足りない 2 種はオオクワガタとヒメオオクワガタです。オオクワガタは本誌 61 号の寄贈標本コーナーで紹介したように、千石荘で生体が採集されたことがありますが、飼育個体が逃げ出したか捨てられたものと考えられ、リストには含めていません。

ヒメオオクワガタは、本誌 20 号において田中良尚氏によって紹介されているように、当館の菊池行道コレクションに 1♂の標本があります (図 3 : 田中、2001)。



図 3. 和泉葛城山産ヒメオオクワガタ  
(♂ : 体長 41 mm)

そのラベルには採集日がなく、単に「Mt. Izumi/Katuragi/OSAKA」とだけ書かれています。その横には金剛山で 1962 年 8 月 3 日に採集された 1♂が並んでいます。菊池行道コレクションが採集された年代から判断しても、和泉葛城山でこのヒメオオクワガタが採集されたのは、1950 年頃から遅くても金剛山での採集年頃だと思われます。

大阪府レッドデータブック (大阪府、2000b) で絶滅種の基準として採用されている「過去 50 年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない」に該当する年月が過ぎてしまいました。標本の採集年が不明なことも加えて、保留という意味で、表 1 にはヒメオオクワガタを含めませんでした。

## 引用文献

- 大阪府 (2000a) 『大阪府野生生物目録』、351pp.  
大阪府 (2000b) 『大阪府における保護上重要な野生生物—大阪府レッドデータブック—』、442pp.  
田中良尚 (2001) 和泉葛城山のヒメオオクワガタ? . 自然遊学館だより No. 20 : 2-3.

(岩崎 拓)

## 行事レポート

### トンボ観察・採集と標本作り

日時 : 2013 年 7 月 14 日 (日) 10:10~16:00

場所 : 貝塚市千石荘周辺

自然遊学館多目的室

参加 : 7 家族 20 名

共催 : 関西トンボ談話会

貝塚市立自然遊学館

協力 : 自然遊学館わくわくクラブ

#### 1. トンボ採集

講師 : 関西トンボ談話会 梅崎裕久、

谷幸三、長瀬翔、宮武頼夫、松田勲

案内 : 貝塚市立自然遊学館 白木江都子、

岩崎拓、湯浅幸子、鈴子勝也

最初に関西トンボ談話会の講師を紹介し、貝塚市立自然遊学館のスタッフの案内でトンボの観察・採集を行いました。

(1) 千石堀城址~大井谷池前水田

10:20~10:50 気温 32.0°C

オオシオカラトンボ 1♀

チョウトンボ 2♀

ウスバキトンボ 4♂2♀

(2) ボタン池

11:00～11:20 気温 32.0℃

キイトトンボ 1♂

ギンヤンマ 数♂

オオシオカラトンボ 1♀

コシアキトンボ 数頭

チョウトンボ 多数

ウスバキトンボ 数頭

(3) 牛神池

11:30～12:00 気温 31.5℃

キイトトンボ 12♂

ベニイトトンボ 数頭

タイワンウチワヤンマ 1♂

ギンヤンマ 2♂

オオシオカラトンボ 1♀

ショウジョウトンボ 1♂

リスアカネ 1♂

コシアキトンボ 数頭

と会の紹介をユーモアたっぷりに行いました。

講師の梅崎裕久さんは、2011年東日本大震災の津波で海水や泥につかった岩手県陸前高田市立博物館所蔵のトンボ標本を大阪市立自然史博物館の依頼を受け修復された実績もあり、トンボの幼虫、羽化殻、成虫の美しい標本を作製する第一人者です。

トンボ標本作製用具として市販されているものがないので、梅崎さんは独自のアイデアと器用さでジョイントマット、パールカラーピン、ピンセット、美容はさみ、住まいの湿気取り等を100円ショップで調達したものをそのまま又は改造して使用しました。

梅崎さんは先ずテキストとこれらの用具を配布し標本作製の説明を行いました。



観察・採集後に千石荘において記念撮影



展翅標本作製の手順を説明  
(向こう左：講師の梅崎裕久さん)

2. トンボ標本作り

自然遊学館多目的室 13:30～16:00

講師：関西トンボ談話会 梅崎裕久

最初に高橋寛幸館長の挨拶、関西トンボ談話会会長谷幸三さんからトンボのお話

展翅標本作製の順序

- ① トンボの処理（酢酸エチル蒸気/ポリ袋）
- ② トンボの腹部内臓の除去と芯材通し
- ③ トンボの整形・固定（裏展翅、マチ針）
- ④ トンボ標本の乾燥（1～2週間）

- ⑤トンボ標本の仕上げ（昆虫針、ラベル）  
ラベル（いつ、どこで、だれが）の作成
  - ⑥トンボ標本の保管（標本箱、乾燥剤）
- 

- ① 午前中に各人が採集したトンボは、梅崎さんがまとめて処理しました。
- ② トンボは肉食昆虫なので、美しい標本に仕上げるには内臓の除去が必要です。子どもは、講師に教えられた通り最初はおずおずとトンボの腹部を切開し真剣にピンセットで内臓を取り出し腹部に芯材を通していました。



トンボの腹部から内臓を取り除く

- ③ トンボは翅を合わせた横向き（横刺し）標本が一般的ですが、本日はチョウなどでお馴染みの展翅標本作りとなりました。展翅板の上に内臓を除去したトンボを裏返しに置き、レジメ解説通りマチ針32本と展翅テープでトンボを固定。展翅板のトンボと乾燥剤をタッパーウエアに入れ乾燥させました。



マチ針と展翅テープで固定

- ④～⑥ ここからは家に持ち帰っての作業となります。

捕まえたトンボを標本にすることに抵抗はないか心配しましたが、子どもたちは講師の説明通り、標本修復のお手伝いをした長瀬翔さんをはじめ関西トンボ談話会スタッフの手助けもあり、真剣且つ大胆に作業をしたのが印象的でした。



標本作りの様子

最後に「トンボは貴重な命を私たちに提供してくれたので、標本はデータラベルをきちんと付け防虫剤を入れ夏休みの思い出として大切に保管して下さい」と参加者にお願ひしました。

（関西トンボ談話会 松田 勲）

## 夕暮れの海探検

日時：2013年7月20日（土）16:00～20:00

場所：二色の浜、自然遊学館多目的室

参加者：45人

協力：大阪湾環境保全協議会

毎年夏に恒例となりました夕暮れに海辺で生きものを観察する観察会です。行事参加予定者の中から希望者を募り、前日の夕方から二色の浜の突堤にカゴ網を仕掛けました。

当日は講師に大阪府環境農林水産総合研究所の鍋島靖信さんにお越しいただき、参加者とともに二色の浜に集合後、スタートしました。まずは仕掛けておいたカゴ網の引き上げです。10個の仕掛けを次々に上げた結果、4個には何も入っておらず、1個は紛失ということで、5個にカニ、貝、タコ、ヒトデが入っていました（図1）。

【二色浜側】	【近木川河口側】
⑤ なし	⑤ 紛失
④ イシガニ 3、マダコ 1、 イトマキヒトデ 2	④ イシガニ 1
③ イシガニ 2	③ イシガニ 1
② アラムシロガイ 15	② なし
① なし	① なし

図1. カゴ網で採集された生きもの

①から⑤は岸から沖に向けての番号

続いて、ミニ地曳網を引っ張りました。例年は近木川河口で行っているのですが、今年は二色の浜で行いました。二色の浜の波打ち際にはアオサが大量に漂っており、幅15mの網のまま曳くと重くて大変なの

で、網の袖をしぼり、幅約10mにして用いました。参加者全員で息を合わせ、引き縄をたぐりよせると、アオサにまじりピチピチと魚が跳ねるのを見つけました。1回の網入れだけでしたが、魚類7種62個体、カニ2種3個体が掛かりました（表1）。



二色の浜で地曳網をひく

表1. 地曳網1回分（平成25年7月20日）

		個体数
魚類	ヘダイ	20
	チヌ	20
	ヒメハゼ	6
	アイゴ	5
	スズキ	5
	クサフグ	4
	コショウダイ	2
甲殻類	イシガニ	1
	タイワンガザミ	2



ヘダイ

撮影：鈴子佐幸氏

軽食休憩をはさんだ後、きれいな夕焼けの海をバックに、突堤でプランクトンネットを用いてのプランクトン採集を行いました。



二色の浜の突堤でプランクトン採集

採集したプランクトンは自然遊学館に持ち帰り、顕微鏡で拡大した画像をモニターに映し出して観察しました。肉眼ではとても小さい何かが動いていることくらいしかわかりませんでした。プランクトンの姿とともに鍋島講師の噛み砕いた解説に、多くの方がミクロの世界に惹きこまれているようでした。



(山田 浩二)

## 夏休み自由研究相談 2013

期間：2013年7月21日～8月25日

自然遊学館では夏休み期間中、自由研究の相談を受け付けました。今年は11件の相談がありました。

- ・カブトムシの飼育  
(貝塚市、小学1年生、男子)
- ・フナの酸性水への耐性  
(岸和田市、小学6年生、男子)
- ・二色運河のカゴ網調査  
(貝塚市、小学6年生、男子)
- ・昆虫の名前しらべ  
(貝塚市、小学1年生、男子)
- ・川、池、海のプランクトン調べ  
(八尾市、小学5年生、男子)
- ・貝の名前しらべ  
(堺市、小学2年生、男子)
- ・セミの羽化  
(貝塚市、小学5年生、女子)
- ・蚊の発生について  
(泉佐野市、小学5年生、男子)
- ・トンボの標本作りと種数  
(貝塚市、小学4年生、男子)
- ・淡路島の貝の種類  
(岸和田市、小学1年生、男子)
- ・ミジンコ  
(堺市、小学4年生、男子)



貝の名前調べ



## 特展協賛ワークショップ 海藻おしば

日時：2013年8月11日（日）13:30～15:30

場所：自然遊学館多目的室

参加者：33人

今年の夏期特別展は「貝塚市の海辺の生きもの」をテーマに8月3日より開催しましたので、その協賛ワークショップとして、海藻おしばを行いました。講師には海藻おしば協会認定指導員の河原美也子さんにお越しいただき、海藻の全体的な説明から始まり、具体的に海藻おしばの作成について実演を交えながら、わかりやすくご指導して頂きました。

この日、特別ゲストとして、貝塚市のゆるキャラとして有名になりつつある「つげさん」も駆けつけてきてくれ、会場は大盛り上がりとなりました。そのなか、参加された子供から大人の方まで熱中して、オリジナルのおしば作品を作成しました。



つげさんと並んで解説する河原講師

## 自然生態園バッタ調べ2013

日時：2013年9月14日（土）10:00～11:30

場所：貝塚市二色市民の森

参加者：19人

今年も森康貴先生の指導、自然遊学館わくわくクラブの皆さんのサポートの下、自然生態園「バッタの原っぱ」のバッタ調べを行いました（図1）。



図1. どんなバッタがいるかな？

「バッタの原っぱ」は埋立地に作られたビオトープで1999年の完成以来、14年が経ちました。秋にバッタ調べの行事を始めたのが2005年で、2006年以降は個体数のデータも取っています。今年は、13人が20分間採集して、8種29個体が得られました（表1）。この中でセスジツユムシが初記録でした。

（山田 浩二）

表1. 自然生態園バッタの原っぱのバッタ調べ

2013年9月14日 10:15~10:35 13人  
 同定: 森 康貴

科	種	成虫	幼虫
キリギリス科	ホシササキリ	4	2
ツユムシ科	セスジツユムシ	1	
コオロギ科	エンマコオロギ	4	
	ハラオカメコオロギ	2	
ヒバリモドキ科	マダラスズ		1
オンブバッタ科	オンブバッタ	8	2
バッタ科	ショウリョウバッタ	1	
	マダラバッタ	1	3

ほか、オオカマキリ(1匹)とチョウセンカマキリ(2匹)を採集。

ほか、カラカネゴモクムシとハマベアワフキを採集。

表2に2006年以降の種数と個体数を示しました。8種という結果は2009年と2010年に並んで最低タイ記録、29個体はこれまで最低だった2006年の50個体を大きく下回ってしまいました。表2には各年の優占種も示しています。優占種というのは一番個体数が多かった種を意味します。今回はオンブバッタの10個体が最多でした。

表2. バッタの原っぱで採集されたバッタ目の種数、個体数、および優占種

年	種数	個体数	優占種
2006	11	50	クビキリギス
2007	12	58	クビキリギス
2008	15	66	ハラオカメコオロギ
2009	8	61	マダラバッタ
2010	8	68	エンマコオロギ
2011	11	70	ホシササキリ
2012	11	73	マダラバッタ
2013	8	29	オンブバッタ

これまで全体の個体数が増える傾向にあったのに、今年はどうしたことでしょうか。考えられる理由は、7月7日から8月

23日まで10ミリを超える雨が降らず、原っぱの中央の草がほぼすべて枯れたことです。しかもその間に、トンボの池の池干しを行っていたことも影響したかもしれません。来年はどうなることでしょうか。

(岩崎 拓)

### 近木川河口の生きものと遊ぼう！

日時：2013年9月7日(土) 10:00~15:00

場所：近木川河口

参加者：61人

午前中は近木川河口のヨシ原で、カニ釣りを行いました。昨年同様、50分間で区切り、参加者みなさんの釣ったカニの大きさを種類ごとに計測しました。この日の釣果は合わせて、ハマガニ54匹、クロベンケイガニ49匹、アシハラガニ26匹、ベンケイガニ1匹、アカテガニ1匹の計5種131匹でした。昨年、一昨年と各種合わせて50匹前後しか釣れなくなりましたが、今年は再び、たくさん釣れる“カニ釣り日和”となりました。



近木川河口でのカニ釣り

**カニ釣り大物ベスト3** 近木川河口2013年9月7日

**クロベンケイガニ**

合計 49個体 (平均甲幅29.9mm)			
甲幅(mm)	性別	採集者	
1	37.1	♂	かのう たいち
2	35.7	♀	やまだ りゆうたろう
3	35.5	♂	ふじわら たかふみ

**ハマガニ**

合計 54個体 (平均甲幅39.3mm)			
甲幅(mm)	性別	採集者	
1	48.8	♂	しらき りょうた
2	48.4	♂	わたなべ いこい
3	47.3	♂	ふじわら たかふみ

**アシハラガニ**

合計 26個体 (平均甲幅25.8mm)			
甲幅(mm)	性別	採集者	
1	30.0	♀	みかわ あきひろ
1	30.0	♂	まつばら こうき
1	30.0	♀	たにぐち あや

**ベンケイガニ**

合計 1個体			
甲幅(mm)	性別	採集者	
1	28.3	♀	かわうえ あらた

**アカテガニ**

合計 1個体			
甲幅(mm)	性別	採集者	
1	23.4	♂	みやつ ほのか

午後からは海に面した河口に移動し、講師に貝にお詳しい児嶋 格さんに加わっていただき、生きもの観察会を行いました。潮のひいた前浜で、参加者はめいめいにタモ網やスコップで見つけた生きものを採集しました。約1時間経過した後は、地曳網を使用しました。参加者みんなで地曳網を引っ張ること2回、ギマ3匹、アカカマス2匹、アミメハギ2匹、スズキ1匹、



近木川河口での地曳網

アイゴ1匹の魚類と、コブヨコバサミ1匹のヤドカリが捕れました。アカカマスは全長約13cmの若い個体でしたが、これまで貝塚市沿岸では自然遊学館での記録がなく、貴重な標本となりました。



アカカマス

締めくくりとして、午後からの採集で捕れた生きものを一堂に集め、どんな生きものがいたのかを紹介しました。次頁の表に今回、観察した生きものについてまとめました。種数では貝類が過半数を占め、そのなかでスズメハマツボは貝塚市の海岸では初記録となりました。



捕った生きものについての解説

近木川河口（前浜）で観察した海岸動物 2013年9月7日

グループ	和名	
軟体動物門 <small>なんたいどうぶつもん</small>	腹足綱 <small>ふくそこう</small>	ケハダヒザラガイ科 <b>ヒメケハダヒザラガイ</b>
	ヨメガカサガイ科 <b>ヨメガカサ</b>	
	ユキノカサガイ科 <b>クモリアオガイ</b>	
	ニシキウズガイ科 <b>イシダタミ</b>	
	アマオブネガイ科 <b>イシマキガイ</b>	
	スズメハマツボ科 <b>スズメハマツボ</b>	
	タマキビ科 <b>アラレタマキビ</b>	
	<b>マルウズラタマキビ</b>	
	<b>タマキビ</b>	
	リソツボ科 <b>ゴマツボ</b>	
	フトコロガイ科 <b>ムギガイ</b>	
	イトカケガイ科 <b>イナザワハベガイ</b>	
	アツキガイ科 <b>イボニシ</b>	
	トウガタガイ科 <b>ヨコスジギリ</b>	
	<b>オーロラクチキレ</b>	
	<b>カラマツガイ</b>	
	(淡水貝) リンゴガイ科 <b>スクミリンゴガイ</b>	
	二枚貝綱 <small>にまいがいこう</small>	イガイ科 <b>ホトギスガイ</b>
	<b>コウロエンカワヒバリガイ</b>	
	<b>クログチ</b>	
イタボガキ科 <b>マガキ</b>		
<b>ケガキ</b>		
チドリマスオ科 <b>クチバガイ</b>		
フネガイ科 <b>カリガネエガイ</b>		
マルスダレガイ科 <b>アサリ</b>		
<b>マツカゼガイ</b>		
節足動物門 <small>せつそどうぶつもん</small>	軟甲綱 <small>なんこうこう</small>	ホンヤドカリ科 <b>ユビナガホンヤドカリ</b>
	ヨコバサミ科 <b>コブヨコバサミ</b>	
	ガザミ科 <b>タイワンガザミ</b>	
	<b>イシガニ</b>	
	モクスガニ科 <b>モクスガニ</b>	
	<b>ケフサイソガニ</b>	
<b>タカノケフサイソガニ</b>		
<b>ヒライソガニ</b>		
脊索動物門 <small>せきそどうぶつもん</small>	硬骨魚綱 <small>こうこつぎょこう</small>	スズキ科 <b>スズキ</b>
	ハゼ科 <b>ミミズハゼ</b>	
	アイゴ科 <b>アイゴ</b>	
	カマス科 <b>アカカマス</b>	
	ギマ科 <b>ギマ</b>	
	カワハギ科 <b>アミメハギ</b>	

近木川のアユを調べよう！

日時：9月22日（日）10：00～12：00

場所：近木川下流（新井井堰）

参加者：33人

新しく昨年より始めた観察会「近木川のアユを調べよう！」ですが、昨年は残念なことに1匹も見つかりませんでした。今年は5月に若アユの群れの見撃情報が寄せられていたのと、実際1匹を採集していたので、期待が高まっていたのですが、8月に下調べをした際には1匹も見つからず、不安が募る中での開催となりました。

当日は快晴に恵まれましたが、一週間前に到来した台風18号の大雨の影響で堰の様子が変わり、右岸側の水の流れが大きくなったので、今回は左岸側から土手を降り、川岸に入りました。講師には昨年同様、「自然と本の会」の河野通浩さんに来て頂き、アユについての簡単な説明のあと、川岸の縁まで行って魚の様子を伺いました。

するとすぐに、群れて泳いでいるアユの姿が目に見え込んできました。まじかです。たくさんアユが近木川で泳ぐ姿をまのあたりにし、参加者のみなさんはきまって、「えっ、信じられない!」と驚きの声をあげていました。



スズメハマツボ 撮影：児嶋 格



アユの群れを眺める参加者

(山田 浩二)

さっそく刺し網を仕掛けると、全長 20 cmを超えるアユたちが次々と掛かりました。アユを網から外し、バケツへ入れる作業が追いつかない程で、計 30 匹ほどが捕まりましたが、弱った個体はすぐに放流し、元気なものだけを水槽に入れて観察しました。

ほかにもタモ網や投網を用いて採集した結果、ウナギやメダカなど魚類 15 種、甲殻類 6 種などが採集されました。下表に今回採集した生物のリストをあげました。



近木川で採集したアユ

〔魚類〕 ウナギ、アユ、メダカ、カダヤシ、タモロコ、モツゴ、オイカワ、フナ、ボラ、ブルーギル、カワアナゴ、チチブ、ドンコ、ゴクラクハゼ、クサフグ

〔甲殻類〕 テナガエビ、ミナミヌマエビ、ミゾレヌマエビ、スジエビ、クロベンケイガニ、モクズガニ

〔両生類〕 ウシガエルの幼生

〔貝類〕 イシマキガイ

〔水生昆虫〕 アメンボ、コシボソヤンマの幼虫

(山田 浩二)

## 泉州生きもの情報 ウスムラサキシマメイガ

8月18日、橋本君の家の窓の上(段差の角)に、ハチの巣を見つけました。その巣の周りには、ハチが4匹いました。30分ほどかかって棒で落とし、網ですくいました。自然遊学館に持って行くと、セグロアシナガバチの巣だと教えてもらいました(図1)。自然遊学館で巣を見ていると、羽根の短い小さなガが1匹出てきました。次に見た時には、ガの羽根が伸びていました(図2)。



図1. セグロアシナガバチの巣  
(貝塚市澤 2013年8月18日採集)



図2. セグロアシナガバチの巣から出てきた  
ウスムラサキシマメイガの成虫

次の日、巣を落とされたハチは、同じ場所に新しい巣を作り始めました。それで、自然遊学館に行くと、昨日の巣からガがもう1匹出ていました。

ガの名前はウスムラサキシマメイガといい、自然遊学館にこれまで標本がなかったそうです。このガの幼虫はセグロアシナガバチの巣の中において、セグロアシナガバチの蛹や幼虫を食べて大きくなると教えてもらいました。そのあと、9月30日までに、このガの成虫が4匹出ました。

ハチに刺されるのはいやだけど、もっと刺されるのがいやだからとハチの巣をとったら、こんなことになりました。

(貝塚市立西小学校 4年)

田中 博・橋本 和樹・道姓 拓海)

今回、当館に持ち込まれたウスムラサキシマメイガ *Hypsopygia postflava* (チョウ目メイガ科) に関して、加藤展朗・山田佳廣・松浦誠・塚田森生 (2007) セグロアシナガバチの巣に寄生するウスムラサキシマメイガの交尾・産卵と幼虫の餌利用、*応動昆* 51(1): 45-50. という論文を読み、セグロアシナガバチの蛹と幼虫を摂食することを知った次第です。幼虫が捕食者というのは、蛾の世界でもかなり変わり者です。(編集部)

## 蝶の話題 2 点

本誌 39 号において、当館所蔵の菊池行道コレクションのヒメヒカゲとクロシジミを加えて、貝塚市で確認されたチョウ類が 78 種になったという報告をしました(岩崎、2006)。このうち、自然遊学館に標本があるのは 76 種で、残りの 2 種は目撃記録のヤマキマダラヒカゲ(澤田、2002) と、

きしわだ自然資料館が所蔵している貝塚市馬場産のウラゴマダラシジミです。かなりの期間、チョウ類の話題に触れないで来ましたが、その間、新たに 2 種が確認され、自然遊学館が把握している貝塚市産チョウ類の種数が 80 種になりました。

### 79 種目ークロマダラソテツシジミ

それまで南西諸島や九州で確認されていた本種が、2007 年の秋に宝塚市で確認されて以降、近畿地方で急速に広げつつあった 2008 年 10 月 23 日に、貝塚市畠中の市役所前のソテツで幼虫が確認されました(阪口、2008; 平井、2009)。当日は、大阪府立大学の平井規央先生と向井康夫君と一緒に 20 数個体の幼虫を採集し(図 1)、当館に持ち帰ったうちの 20 個体が 11 月 6 日~9 日の間に羽化し(13♂7♀)、当館の所蔵標本としました(図 2)。



図 1. クロマダラソテツシジミ幼虫  
(貝塚市畠中、2008 年 10 月 23 日採集)



図 2. クロマダラソテツシジミ成虫  
(左: ♂成虫; 右: ♀成虫; 貝塚市畠中産)

その後、2009年2月19日に食野俊男さんが貝塚市加神において、成虫1個体と蛹3個体の死体を採集され、当館に寄贈していただきました。以後、本種の発生は確認されていません。

## 80 種目ーホシミスジ

2013年9月12日、千石荘昆虫調査の終了間際、舗装道路沿いの雑木林の林縁（旧養護学校グラウンドの向い）において、コムスジと思って望遠で撮影した画像を自宅で見ると、ホシミスジでした（図3）。翅の表に関しては、ホシミスジの方が前翅の横線が分断されていることと、前翅端の白い点が多いことが特徴です。



図4. ホシミスジ  
（貝塚市千石荘、2013年9月12日撮影）

遠い所を飛んでいて採集できなかったので、標本なしの記録になってしまいました。ホシミスジの幼虫の餌植物は、ユキヤナギ、コデマリ、シモツケなどで、野生のものは貝塚市にありません。でも植栽のものはあると思います。和泉市や岸和田市ではホシミスジの記録があるので、いずれ貝塚市でも見つかると思っていましたが、コムスジと見間違えての確認となるとは予

想外でした。自宅で気付いた時には、やっとかという思いと、自分の目が節穴だったのかとの思いで、複雑な気分になりました。

## 引用文献

岩崎 拓（2006）自然遊学館所蔵チョウ類標本（つづき）. 自然遊学館だより No. 39 : 9-10.

阪口博一（2008）南大阪昆虫情報プラス1. 南大阪の昆虫 10 : 89-90.

澤田義弘（2002）近木っ子探検隊ハイキング「水間～馬場の春を楽しもう」. 自然遊学館だより No. 24 : 2-4.

平井規央（2009）本州と四国におけるクロマダラソテツシジミの記録. やどりが 220 : 2-20.

（岩崎 拓）

## 近木川でカダヤシ出現

9月22日に行いました「近木川のアユを調べよう！」の行事レポートの中にあげていますとおり、近木川でカダヤシ（図1）が採集され、自然遊学館では貝塚市内での初記録となりました。さらに同日、午後からの汽水ワンドでの魚類調査でもカダヤシが採集され、ついに入って来たかとの印象を強く持ちました。

本種は外来魚で、気性が荒く、メダカの生息地にカダヤシが侵入した場合、メダカが減少し、カダヤシに置き換わってしまう事例が報告されています。近木川では最近、メダカの群れがよく確認されだしてきて

ただけに、今後の動向が心配されます。

もともと、カダヤシ（蚊絶やし）はその和名が示す通り、国内には蚊（ボウフラ）の駆除を目的として 1916 年にはじめて台湾島経由で導入されました。現在は東日本から沖縄県にかけての各地に分布し、在来種への影響が大きく、生態系へ被害を及ぼすことなどから、外来生物法によって 2006 年に「特定外来生物」に指定されました。



図 1. 近木川で見つかったカダヤシ

〔採集データ〕

採集日：2013 年 9 月 22 日

採集地：新井堰下、採集個体：2♀

（採集者 行事参加者）

採集地：汽水ワンド、採集個体：9♂

（採集者 寺田拓真、山田浩二、山本晃平）

和名 カダヤシ

科名 カダヤシ目カダヤシ科

学名 *Gambusia affinis*

英語名 mosquito fish、topminnow

原産地 北アメリカ

参考文献

瀬能 宏監修（2008）『日本の外来魚ガイド』、文一総合出版、159pp.

（山田 浩二）

## 職場体験の感想

今日 1 日体験させて頂いて、ナメクジやカタツムリなどの苦手な生き物とも、クワガタやカブトムシなどの好きな生き物とも色々な虫と触れ合えることができました。そして、何とんでも「ウシガエルの脱走」が一番印象に残っています。

この体験では「生き物は生きている」ということを改めて実感させてくれました。社会体験学習を受け入れてくれたこと、貝塚で動物を飼育してくれているということをととても感謝しています。今日は本当にありがとうございました。

（貝塚市立第三中学校 2 年 雑喉谷圭祐）

\* 2013 年 7 月 10 日に、泉鳥取高校の栗津秀隆さんと一緒に職場体験をしてもらいました。「ウシガエルの脱走」とあるのは、飼育水槽の水の入れ替えの際に、仮のケースから跳ね出したもので、館外へ脱走したものではありません。（編集部）

## 学芸員実習生の課題研究

博物館学芸員資格の取得に向けて、今年度、当館で 10 日間の実習を行った学生らがまとめた自主課題について紹介します。ここでは、タイトルのみを掲載しますが、全文のレポートは館内で閲覧できます。

「自然遊学館周辺におけるトカゲ類の生息状況」 鳴海秀昭（近畿大学農学部 3 年）

「近木川河口右岸側及び二色浜海浜緑地公園砂利浜に生息する植物」

三柘信弥（近畿大学農学部 3 年）



「二色の浜公園周辺における投網調査」  
友岡直樹（近畿大学農学部 3年）

「和泉層群の化石たち ― 蕎原を中心として ―」  
川上朗彦（近畿大学農学部 3年）

「自然遊学館の教育普及・広報について  
～今後の発信に向けて～」  
山本晃平（法政大学法学部 4年）

「博物館と教育について～学校教育に博物館はどのように関わるのか～」  
横井利恵（奈良女子大学文学部 4年）

その他、大阪府立大学理学部 4年の千崎雄介さんと奈良女子大学文学部 3年の大泉光子さんが、博物館学芸員実習に取り組みました。

コサメビタキ 巣 1点  
貝塚市蕎原 2013年7月5日採集



**コサメビタキの巣**  
貝塚市蕎原 2013年7月5日  
佐々木敏夫さん採集  
ウメノキゴケを付けています

2つの巣とも、ヒナが巣立ち、親鳥が巣を放棄したことを確認してから巣を採集し、自然遊学館に寄贈していただきました。子育ての様子は<寄贈写真>のコーナーをご覧ください。

## 寄贈標本

### <菌類>

- ◆白木翠さんより  
オオクロニガイグチ 1点  
貝塚市千石荘 2013年7月14日採集

### <鳥類>

- ◆辻優士さんより  
ヒヨドリ 卵殻 1点  
貝塚市二色 2013年6月12日採集  
ドバトかキジバト 卵殻 1点  
貝塚市二色 2013年6月14日採集
- ◆佐々木敏夫さんより  
オオルリ 巣 1点  
貝塚市蕎原本谷 2013年7月5日採集

### ◆大阪府立少年自然の家より

- イソヒヨドリ 死体 1点  
貝塚市木積 2013年7月8日採集

### ◆飯田政治さんより

- カワラヒワ幼鳥 死体 1点  
阪南市貝掛 2013年7月12日採集

### ◆石井葉子さんより

- カワセミ 卵殻 1点  
貝塚市千石荘 2013年7月27日採集

### ◆辻優士・池田れいさんより

- ドバト 卵殻 1点  
貝塚市二色 2013年8月23日採集

### <爬虫類>

- ◆渡辺久和さんより  
アオダイショウ 生体 1点  
和泉市府中町 2013年7月18日採集

- ◆長滝谷北斗・泉野龍斗・岡本海斗・  
鹿島裕喜さんより  
ヤモリ 生体1点  
貝塚市二色 2013年7月22日

### <両生類>

- ◆高山未緒さんより  
トノサマガエル 生体2点  
貝塚市蕎原 2013年7月27日採集
- ◆金子雄二さんより  
トノサマガエル 生体2点  
イモリ 生体1点  
貝塚市蕎原 2013年8月22日採集

### <魚類>

- ◆千地芳樹さんより  
ナマズ 生体2点  
大津川下流 2013年6月30日採集
- ◆保田和さんより  
ヒガンフグ 生体1点  
貝塚市二色浜突堤 2013年7月6日採集
- ◆石井翔生愛さんより  
カライワシの葉形仔魚 生体2点  
近木川河口 2013年7月7日採集  
ガンテンイシヨウジ 生体1点  
近木川河口 2013年7月21日採集
- ◆渡辺怜真さんより  
シロメバル 生体1点  
貝塚市二色運河 2013年8月15日採集  
マアナゴ 生体1点  
貝塚市二色運河 2013年8月16日採集
- ◆伏見光太郎さんより  
タカクラタツ 生体1点  
泉佐野漁港 2013年9月8日採集

### <甲殻類>

- ◆高山未緒さんより  
サワガニ 1点  
貝塚市蕎原 2013年7月27日採集
- ◆渡辺怜真さんより  
ケブカヒメヨコバサミ 生体1点  
貝塚市二色運河 2013年8月15日採集
- ◆西川佑亮さんより  
ヤマトヌマエビ 生体3点  
貝塚市稲谷 2013年8月15日採集
- ◆岡村親一郎さんより  
シャコ 生体7点  
(コフジガイ付着)  
大阪湾阪南市沖 2013年9月1日採集

### <軟体動物>

- ◆岡村親一郎さんより  
ホソヤツメタ 1点  
貝塚市二色の浜 2004年9月18日採集  
(久保善一郎さん採集)
- ◆渡辺怜真さんより  
マダコ 生体1点  
貝塚市二色運河 2013年8月16日採集
- ◆岸和田市立光陽中学校蟹クラブより  
イズミミノウミウシ 生体1点  
泉南市マーブルビーチ  
2013年8月21日採集

### <昆虫>

- ◆五藤武史さんより  
ヤマトオサムシ 成虫1点  
貝塚市稲谷 2013年5月21日採集  
クロホシツツハムシ 成虫1点  
貝塚市蕎原 2013年5月30日採集  
クロスジギンヤンマ 羽化殻1点

- 貝塚市木積 2013年5月31日採集
- ◆森本静子さんより  
マユタテアカネ 成虫2点  
リスアカネ 成虫2点  
アキアカネ 成虫1点  
岸和田市河合町 2013年6月27日採集  
(幼虫として採集したものを飼育)
  - ◆佐々木仁さんより  
スジクワガタ 成虫2点  
貝塚市馬場 2013年7月6日採集  
(採集者:岩橋俊さん)  
ミヤマクワガタ 成虫1点  
貝塚市稲谷 2013年8月10日採集  
オオフトモンウバタマコメツキ  
成虫1点  
貝塚市蕎原 2013年8月10日採集  
エビガラスズメ 蛹1点  
貝塚市脇浜 2013年9月14日採集
  - ◆飯田政治さんより  
ヤマトタマムシ 成虫1点  
阪南市貝掛 2013年7月7日採集
  - ◆船越雅敏さんより  
ヤマトタマムシ 成虫1点  
オオゴキブリ 成虫1点  
貝塚市水間 2013年7月10日採集
  - ◆泉谷和樹・松葉正浩さんより  
クワカミキリ 成虫1点  
シロテンハナムグリ 成虫2点  
クマゼミ 羽化殻2点  
ショウリョウバッタ 幼虫1点  
貝塚市澤  
2013年7月13日採集
  - ◆江本大地・玲子さんより  
オオヒラタシデムシ 成虫1点  
貝塚市千石荘 2013年7月14日採集
  - ◆白木茂さんより  
マツノマダラカミキリ 成虫1点  
貝塚市千石荘 2013年7月14日採集
  - ◆濱谷巖さんより  
コカスリウスバカゲロウ 成虫1点  
岸和田市別所町 2013年7月14日採集
  - ◆岩橋俊さんより  
ミヤマクワガタ 成虫1点  
貝塚市馬場 2013年7月20日採集  
ミヤマクワガタ 成虫1点  
ノコギリクワガタ 成虫2点  
カブトムシ 成虫2点  
貝塚市馬場 2013年8月3日採集
  - ◆川口博さんより  
モノサシトンボ 成虫1点  
神戸市六甲山 2013年7月22日採集  
アブラゼミ 成虫1点  
貝塚市二色 2013年7月26日採集
  - ◆藤原猛さんより  
ヨツスジトラカミキリ 成虫1点  
貝塚市水間 2013年7月27日採集
  - ◆田中博、橋本和樹、道姓拓海さんより  
セグロアシナガバチ 巣1点  
(ウスムラサキシマメイガが脱出)  
貝塚市澤 2013年8月18日採集
  - ◆田中博、橋本和樹さんより  
セグロアシナガバチ 巣1点  
貝塚市澤 2013年8月19日採集
  - ◆金子雄二さんより  
ミヤマクワガタ 成虫1点  
キマワリ 成虫1点  
貝塚市蕎原 2013年8月22日採集
  - ◆児嶋格さんより  
ヒゲナガゾウムシ科の一種 成虫1点  
泉佐野市湊 2013年9月7日採集

◆中谷憲一さんより

キボシアシナガバチ 巣1点  
貝塚市二色 2013年9月9日採集

◆森康貴さんより

カラカネゴモクムシ 成虫1点  
貝塚市二色 2013年9月14日採集

貝塚市澤在住の新谷洋二さんから、今年も展示用にスズムシを多数寄贈していただきました。



**コサメビタキ**  
貝塚市蕎原 2013年7月1日  
佐々木敏夫さん撮影

<寄贈写真>

◆佐々木敏夫さんより

オオルリ 3点  
貝塚市蕎原本谷 2013年6月28日撮影  
コサメビタキ 5点  
貝塚市蕎原 2013年7月1日撮影

シュレーゲルアオガエル卵塊 2枚  
貝塚市木積 2013年7月5日撮影

◆匿名希望さんより

タヌキ 死体1点  
泉南市男里 2013年8月29日撮影

◆食野俊男さんより

オナガガモ♂(夏羽) 3点  
貝塚市近木川下流  
2013年9月18日撮影



**オオルリ**  
貝塚市蕎原本谷 2013年6月28日  
佐々木敏夫さん撮影



**オナガガモ♂(夏羽)**  
貝塚市近木川下流 2013年月28日  
食野俊男さん撮影

セイタカシギ 20枚

貝塚市麻生中 2013年9月18日撮影



**セイタカシギ**

貝塚市麻生中 2013年9月18日

食野俊男さん撮影

自然遊学館の記録で市内 189 種目となりました。

◆平山きよつぐさんより

タウナギ 2点

貝塚市三ツ松 2013年9月21日撮影

◆石井葉子さんより

カワセミ 巣3点

ミサゴ 死体3点

貝塚市千石荘 2013年9月29日撮影

◆五藤武史さんより

オオキトンボ 1点

岸和田市久米田池

2013年9月29日撮影

 **特別展レポート**

**特別展「千石荘の自然」の報告Ⅱ**

3. 千石荘の昆虫

自然遊学館がこれまでに千石荘で記録した昆虫は 684 種です (表 1)。この値は、自然遊学館が所蔵する千石荘産の標本の

種数 552 種に、2005 年、2006 年、2011 年、2012 年に行った定期調査で確認された種をまとめたものです。正確に比較できる値ではありませんが、自然遊学館が所蔵する貝塚市産昆虫標本が 2,649 種 (2012 年 3 月末) なので、千石荘の昆虫の種数は、およそ 4 分の 1 を占めることになります。千石荘における各目の種数を表 1 に示しました。種数はあくまで暫定値であり、調査が進めば、種数はもっと増えると思います。

表 1. 自然遊学館所蔵貝塚市産昆虫標本の目別種数、および千石荘で確認された昆虫の種数

目	貝塚市	千石荘
カゲロウ目	39	0
トンボ目	72	40
カワゲラ目	20	0
バッタ目	95	47
ナナフシ目	4	1
ハサミムシ目	8	1
カマキリ目	7	6
ゴキブリ目	6	3
シロアリ目	1	1
チャタテムシ目	6	2
カメムシ目	356	146
アザミウマ目	1	0
アミメカゲロウ目	36	13
コウチュウ目	671	174
シリアゲムシ目	7	0
ノミ目	1	0
ハエ目	159	58
チョウ目	911	108
(うちチョウ類)	(77)	(47)
トビケラ目	42	1
ハチ目	207	83
合計	2649	684

大阪府レッドデータブック (大阪府、2000) の指定種は 8 種で、ランクの内訳は絶滅危惧Ⅱ類がネアカヨシヤンマ、マルタ

ンヤンマ、準絶滅危惧がベニイトトンボ  
(図7:前号Iからの続き番号)、ナニワト  
ンボ、ネキトンボ、ヤスマツアメンボ、コ  
シロシタバ、要注目がクルマバツタです。



図7. ベニイトトンボ

表2には、他の動物や植物も含めて、千石荘で確認されている大阪府レッドデータブック指定種を示しました。本誌62号で発表したリストから、鳥類のササゴイ、爬虫類のタカチホヘビ、昆虫のコシロシタバ、植物のギンランが増えています。このうち、タカチホヘビだけは新発見による追加ではなく、本誌16号の竹本卓哉さんによる報告(1998)を書き漏らしていたものです。たいへん失礼致しました。

表2. 千石荘で確認されている大阪府レッドリスト種

(貝塚市立自然遊学館作成：2013年9月末まで)

グループ	種名	ランク
哺乳類	カヤネズミ	要注目
鳥類	オオタカ	絶滅危惧Ⅱ類
	クイナ	絶滅危惧Ⅱ類
	ササゴイ	準絶滅危惧
	オオバン	準絶滅危惧
	カワセミ	準絶滅危惧
	ホオアカ	準絶滅危惧
	カワウ	要注目
	ミサゴ	要注目
	ハイタカ	要注目
	ノスリ	要注目
	ケリ	要注目
爬虫類	タカチホヘビ	情報不足
昆虫類	ネアカヨシヤンマ	絶滅危惧Ⅱ類
	マルタンヤンマ	絶滅危惧Ⅱ類
	ベニイトトンボ	準絶滅危惧
	ナニワトンボ	準絶滅危惧
	ネキトンボ	準絶滅危惧
	ヤスマツアメンボ	準絶滅危惧
	コシロシタバ	準絶滅危惧
クルマバツタ	要注目	
淡水産貝類	ドブガイ	要注目
植物	アンペライ	絶滅危惧Ⅰ類
	タヌキマメ	絶滅危惧Ⅱ類
	ギンラン	要注目
	イヌタヌキモ	要注目

大阪府レッドリストのランク

絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危機が増大している種
準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種
要注目	良好な自然環境の指標となる種
情報不足	カテゴリーを評価する情報が得られていない種

今回の特別展では、貴重な虫、変わった虫、注目している虫を中心に、写真と標本を展示しました。展示なので、写真の出来も選択基準になります。写真で紹介したのは、ベニイトトンボ、クロイトトンボ、ナニワトンボ、アキアカネ、チョウトンボ、コロギス、マツムシ、ツチイナゴ幼虫、ク

ルマバツタ、オオカマキリ、ヤノクチナガ  
オオアブラムシ、オオキンカメム、カブト  
ムシ、ヒラタクワガタ、コクワガタ、キア  
シキンシギアブ、ハチモドキハナアブ、ナ  
ガサキアゲハ、ツマキチョウ、クロコノマ  
チョウ、ミズイロオナガシジミ、キノコヒ  
モミノガ、ピロードハマキ、コシロシタバ、  
トビイロトラガ(図8)、アケビコノハ幼虫、  
オオスズメバチ、キアシナガバチです(外  
来種は次号以降に示します)。これまで本  
誌で紹介してきた写真も含まれています。



図8. トビイロトラガ

貴重な虫や変わった虫も大切です。それ  
に加えて、千石荘の昆虫相の一番の特徴は、  
いわゆる普通種がたくさんいる、というこ  
とだと思います。そう思うのは他の場所で  
昆虫たちのすみ場所がどんどん奪われ、普  
通種が普通種でなくなりつつあるという  
ことも一因です。

#### 4. 千石荘のクモ

クモはすべて捕食者で、昆虫などを摂食  
します。生態系の中で重要な役割を果たし  
ていることや、セアカゴケグモのような危  
険な外来種もいることは重々承知してい

ますが、クモもキノコと並んで、自然遊学  
館の調査が不十分なグループです。どうし  
て十分な調査が行われなかったのかは、情  
けない話ですが、前号の自然遊学館だより  
に記しました。



図9. ササグモ

最もふつうに見られるコガネグモでさ  
え、特別展開幕の3日前に採集して、何と  
かりストに加えた次第です。展示した写真  
は、ササグモがアオイトトンボを捕らえた  
瞬間です(図9)。貝塚市内でこれまで82  
種、千石荘では21種のクモが確認されて  
いますが、調査が進めば種数はさらに増え  
ると思います(種数は2013年6月時点の  
ものです)。

#### 5. 千石荘の陸産貝など

今回の特別展では、2012年12月から開  
催した「かたつむり展」で、児嶋格先生が  
千石荘の陸産貝について書かれた文章を、  
そのまま引用させていただきました。調査  
が十分に進んだ陸産貝に関しても、千石荘

の種数は貝塚市全体の種数のほぼ3分の1を占めます。詳しいリストは、自然遊学館の年次活動報告書で近いうちに公表される予定です。今回の特別展では、クチベニマイマイ、ナミマイマイ、ヤマナメクジの生体と写真を展示しました。

ほか、陸産貝ではありませんが、淡水貝として大阪府レッドデータブックで要注目指定されているドブガイを紹介しました。自然遊学館では千石荘において、水生昆虫と水生動物の調査をほとんど行ってこなかったため、今回の特別展で紹介した水生動物はドブガイだけでした。

## 引用文献

竹本卓哉（1998）千石荘、夏の雑木林の昆虫。

自然遊学館だより No. 16 : 10-12.

（岩崎 拓・湯浅 幸子）

## 20周年記念寄稿

### 遊学館 20周年を記念して

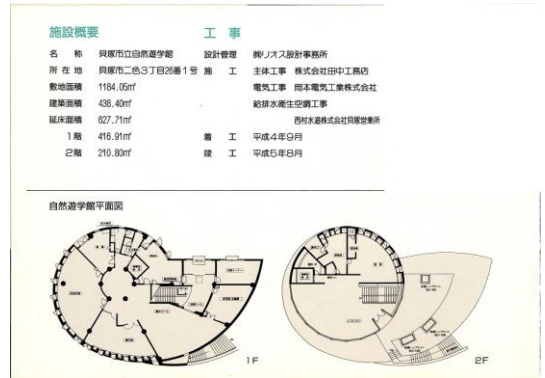
#### 『生きものだいすきで20年』

#### —生きものだいすきの歴史が 積み上げたもの—

自然遊学館は、貝塚の自然を調査し、豊かな環境を保全していくために、貝塚市二色町に建てられました。今から20年前の平成5年の出来事でした。それ以降環境教育の拠点となるべく、貝塚市の生きもの調査や植物調査を重ねてきました。

また、遊学館は和泉葛城山で見つけられ

た『アンモナイト』をモデルにしたユニークな形をした建物であることもご存じのことと思います。



当時の遊学館パンフレットより引用

遊学館は今年10月で20周年を迎えました。そこで、今回は10月の20周年に向けての様々な準備作業や20周年の出来事の中からいくつかお伝えしようと思います。

### 20周年に係る職員関係の資料作りから

まず初めに遊学館に係った職員の数に驚きました。遊学館は仕事の特徴から言って、生きもの専門家でないと務まらないことは間違いありません。また、自然観察を主にした行事が多いことからお手伝いをしてくれるボランティアも数多く必要とします。一つの行事をするときに遊学館スタッフだけでは40人を超える参加者があるとスタッフひとりでは幾つもの役割を抱えなければいけないので大変です。その時助けになるのがボランティアスタッフと講師です。

遊学館の20年間の記録から顧問・館長、研究員、臨時職員、業務委託員、講師の一



覧を作りました。するとその総数は 86 名になりました。年により多い少ないはありますが、年間 20 名近い人数が遊学館にかかわってくれていたことが分かりました。まさに、小さな博物館が多くのボランティアに支えられていた証です。

ここで、今まで遊学館行事にかかわっていただきました皆様にお礼を申し上げるとともに、今後とも多くの皆様の支援を賜りますようお願いいたします。



記念式典・市長あいさつ 2013. 10. 19

### 遊学館が保有する自然に関するデータ

遊学館だよりには、毎号職員の活動報告やデータ紹介とともに、市民の皆様から寄せられるたくさんのデータやニュースを紹介しています。その総数は膨大で、数えることができないほどです。(数えられないことは無いのですが・・・) このように身近な出来事や画像データを寄せて下さる方は小学生から大人まで幅広い年齢の方です。このことも、遊学館が市民の皆様にあいさつ支援されている証です。

ここで記念行事から 2 つ紹介します。



ジャンボシャボン玉で遊ぼう 2013. 10. 19

### 20 周年記念イベント

今年、10 月に自然遊学館は 20 周年を迎えました。10 月 19 日 (土) と 20 日 (日) の二日間にわたり記念式典が開かれ記念行事が行われました。当日は二日間とも雨の降る悪コンディションでしたが、多くの皆様が来館されました。



するクイズ大会です。10 問の〇×問題が出題され、解答のたびに大きな歓声が起こる場面もありました。むずかしい問題もあり

ましたが、正解多数でした。



遊学館クイズ大会 2013. 10. 19

このほかに、遊学館の生きもの人気者総選挙が二日間にわたりありました。



1 位に選ばれた『タクラタツ』

今後とも遊学館に皆様のご支援を賜りますようお願いして終了とします。

(高橋 寛幸)

## 再び貝塚市のコバネガ科 (Lepidoptera:Micropterigidae) の昆虫について

1994年11月10日発行の貝塚市立自然遊学館だより「1994年秋号」のシリーズ貝塚の昆虫に、黒子浩先生は「チョウとガの祖先—コバネガ—が貝塚に」と題して、コバネガ科の昆虫の特徴である翅脈相と口器と共にマエモンコバネ♂の全形図を付してニッポンヒロコバネとマエモンコバネが貝塚に分布することを記述し、その折に幼虫の食草についても触れ、食草の研究が進展することを望まれた。

私はこの記事を見た時、和泉山脈では岩湧山の岩湧寺参詣道、槇尾山の施福寺参詣道の環境にもあるように、5月の連休時あたりにニッポンヒロコバネが、少し後にムモンコバネが、そして最後に少し高度が高いところにマエモンコバネが発生するものとの推測をしていたし、幼虫の食草にしてもニッポンヒロコバネはジャゴケの仲間を、ムモンやマエモンコバネではウロコゴケかヤバネゴケの仲間に依存しているのではないかと推測をしていた。

後の2006年3月に橋本里志氏が北九州市の博物館から「A taxonomic study of the family Micropterigidae (Lepidoptera, Micropterigoidea) of Japan, with the phylogenetic relationships among the Northern Hemisphere genera」とのタイトルで論文を公表したが、その65頁にムモンコバネがマキノゴケを、66頁にマエモンコバネがウロコゴケの *coabitus* とマキノゴケをそれらの幼虫が食することを明ら

かにし、ムモンコバネが貝塚に分布することを記載している。



自然遊学館だより 1994 年秋号 1 頁



自然遊学館だより 1994 年秋号 2 頁

私は 2013 年に気候が不安定で高温が続いたけれども、5 月 13 日、17 日に和泉葛城山の登山道、本谷林道の春日橋と東手川橋との間の林道山側のコケが密生する湿地帯に採集に行き、ニッポンヒロコバネとムモンコバネそれぞれ 3 個体ずつを得た。6 月になって 3 回、同地域を訪れたがマエ

モンコバネを得ることが出来なかった。しかし、黒子 (1994) の記載からすればマエモンコバネの分布は確実と思えるので、貝塚市の蕎原地区には 3 種の分布は明らかと考える。

貝塚市蕎原地区に生息するコバネガ科

ニッポンヒロコバネ

*Neomicropteryx nipponensis* Issiki, 1931

ムモンコバネ

*Paramartyria immaculatella* Issiki, 1931

マエモンコバネ

*Paramartyria semifasciella* Issiki, 1931

(保田 淑郎)

## スタッフ日誌

7 月 22 日、当館で 6 月 16 日から 7 月 14 日に開催した特別展「千石荘の自然」のダイジェスト版を、7 月 22 日から、植物編、昆虫編、動物編に分けて、9 月 2 日まで山手地区公民館と共催で同公民館において展示しました。(岩)

8 月 12 日、日本気象協会の気象予報士・<sup>ゆる</sup>萬木敏一さんが、ラジオ中継のため来館され、番組内 (ラジオ大阪・高岡美樹のべっぴんラジオ) で、自然遊学館の展示物や夏休み自由研究相談などの活動を紹介していただきました。(岩)

8 月 17 日、Jcom のテレビ番組「ココらぼ」の収録が、館内および近木川で行われまし

た。リポーターとして吉本芸人 SPAN!の二人組が来られ、面白おかしくちょっぴり真面目に、「近木川のアユ」をテーマとして、生きもの調査を行いました。アユ捕り名人の河野さんと近大の実習生 2 人とともに、酷暑の中、タモ網や刺し網などを用いて調査をしましたが、狙いのアユはこの日は捕れませんでした。でも、代わりにゴクラクハゼやメダカ、タモロコなど多くの魚やカニ、エビなどは捕れましたので、近木川が生きもので賑わう様子は、お茶の間に伝わったのではと思います。(山)

9月28日、善兵衛ランドで共催行事「虫と星の観察会Ⅰ」を行いました。貝塚市のバッタ目の解説の後、望遠鏡で星の観察をする班と鳴く虫の声を聞く班に分かれ、班を入れ替え、最後に集まって星座を観察しました。10月には善兵衛ランドの森館長にお越しいただき「虫と星の観察会Ⅱ」を行います。詳細は次号で報告させていただきます。(高、岩、山)

## お知らせ

### 「貝塚の自然第15号」発行

自然遊学館の2011年度の活動をまとめた年次活動報告書が7月31日付で発行されました。編集がたいへん遅れてしまい、投稿者の方にご迷惑をお掛けしました。申し訳ありませんでした。

### 五藤武史写真展「泉州のイトトンボ」

五藤武史氏から寄贈していただいた泉

州のイトトンボの写真を展示します。貝塚市に生息するイトトンボを紹介するスライドショーも用意しました。ぜひ見に来てください。



期間：2013年11月2日(土)～24日(日)  
場所：自然遊学館多目的室  
月・木・金曜日は9:00～17:00  
水・土・日曜日は9:00～21:00  
火曜日は休館日です。

\* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2013 秋号 (No. 69)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: [shizen@city.kaizuka.lg.jp](mailto:shizen@city.kaizuka.lg.jp)

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2013.11.8

この小冊子は店内印刷で作成しています。